



# そよ風



2026年  
1~3月号  
No.147

横浜市港北国際交流ラウンジ

KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

こうほく  
ふるさと港北ふれあいまつり

ごとうかいさい  
合同開催

あき  
秋のヨコアリくんまつり



11月8日（土）横浜アリーナで開催された「ふるさと港北ふれあいまつり」に港北国際交流ラウンジも参加しました。「秋のヨコアリくんまつり」と合同開催のこのまつりは、横浜アリーナを埋め尽くすほど様々な参加ブースで毎年大盛況です。今年は1階のメインアリーナ内のブースで、民族衣装の試着や撮影、外国語のじゃんけん、日本と世界の姉妹都市のクイズなどでたくさんの方々とふれあいがありました。

メインアリーナは舞台もあり、世界のダンス、チアが行われていて会場はとても賑やかで熱気に包まれていました。その雰囲気のおかげでラウンジのブースにもお客様が途切れることがありませんでした。



「めったに着る機会がないから着てみようかな」と民族衣装を着たり、初めての外国語のじゃんけんに興味津々のお子さんたちなどで盛り上がりました。

外国語のじゃんけんでは、中国語、韓国語とフィリピンのタガログ語のじゃんけんができました。参加者へのお土産が予想以上に早く品切れになり、追加でお菓子をお土産にするほどの盛況ぶりでした。

そんな中、山中竹春横浜市長もおいでくださり参加していた日本語学習者と記念写真を撮らせていただきました。学習者のひとは撮影後に「え？今の人は市長だったんですか!?すごい体験です!」と感激していました。

参加者それぞれに良い思い出になったでしょう。

## ボランティア永年活動表彰式



10月12日ワクワクまつりの日にボランティア永年活動者の表彰式がありました。今年度は11名が表彰されました。

- ◆20年◆日本語教室部会から、篠木肇子さん。
- ◆10年◆日本語教室部会から四元守さん、安澤佳子さん、早田圭子さん、吉田明子さん、占部重行さん、なかしまさちえさん、野村高明さん。
- 交流企画部会から、明石素子さん、松本隆幸さん。
- 情報広報部から、小杉茂次さん。

長きにわたる活動ありがとうございます。



## わたしのボランティア活動 (No.30)

日本語教室 火曜日夜間クラス 鈴木 勝美 さん



私が日本語ボランティアを始めたきっかけは、ラウンジで開催されていた英語講座を受講したことでした。講座仲間にも勧められ、元々国際交流に興味があったことから、養成講座を受け、翌年から活動を始めました。来年で10年になりますが、よく続

いたなというのが素直な感想です。

学習者さんとの交流はとても楽しく、やりがいを感じる一方、色々悩み、辞めようと思ったこともあります。でもここ数年でやっと落ち着き、毎週の活動が本当に楽しみになっています。

今まで様々な国からの沢山の学習者さんに関わってきました。特に印象に残っているのはインドからのインターン生、シャシャンクさんです。ラウンジに来たときは、全くの初心者でしたが、3カ月位経った頃、お休みの連絡を日本語で電話してきてくれたのです。

上達の速さと、積極的に日本語を話そうとする態度に感動したことを覚えています。

活動の中で一番大変だった思い出は、初めてクラス代表になって最初の活動日です。慣れない代表で緊張しているところに、新規学習者が次から次へと訪れ、その数なんと15人。受付順に皆で手分けして面接し、とにかくそれぞれのグループに振り分けました。1人で5人も学習者を担当してくれたベテランボランティアなど皆さんのお陰でなんとか無事に初日を終えましたが、今までの人生の中で一番と言っても良いくらいに忙しい経験でした。

その他個人的な思い出として、コロナ禍の半年間、仕事もボランティア活動もなくなり、何もすることがなくなったのを幸い、以前から受けたいと思っていた日本語教師養成講座を受講することが出来ました。それまではよく理解していなかった文法も勉強することが出来、その後のラウンジでの日本語教室での活動にとても役に立っています。

これからも新しい出会いを楽しみに活動を続けていきたいと思っています。

## ミャンマーを知りたい

(ハローワールド)



9/13(土)、国際理解教室ハローワールドで「ミャンマーを知りたい」を開催しました。

国の名前はよく聞くけどあまりよく知らないミャンマーについて、NPO法人リンクトゥミャンマー代表 深山沙衣子さんから話をうかがいました。

ミャンマーには135の少数民族がおり人口の30%ほど、70%はビルマ族で構成されています。

豊かな仏教文化があり仏塔(パゴダ)がたくさんあります。



また、仏教の影響で寄付(布施)文化が浸透しています。僧侶や僧院だけでなく、学校、病院、貧困家庭など幅広く寄付が行われたり、善行を積むのが功德とされています。

イラワジ川やインレー湖など水と暮らす方も多くいます。高床式の家に住み、豊富な魚を捕る漁業が盛んです。日本のような焼き魚より、煮たり揚げたりスパイシーな味付けが一般的だそうです。「モヒンガー」という麺料理はナマズのスープだそうです。



化粧や日焼け止めとして男女ともに使われている「タナカ」というものは、タナカの木をすりつぶして作られたもので、民族衣装のロンジーとともに土産物として人気があります。

ミャンマーの文化、食文化、水とのか、政治、在日外国人について、いま直面している問題など、様々な話をたっぷり80分お話しいただきました。

最後はミャンマーのお茶とお菓子KOUNG MON(カクモン)をいただきながら、質疑応答タイムもありました。



今回の話をきっかけにミャンマーのことを更に深く知っていただけたらと思います。



にほんごがくしゅうしゃしょうかい

## 日本語学習者紹介(No.42)

ベトナム出身ご夫妻

ホアン・ベン・チェンさん(チェン)

チャン・ティ・ズンさん(ズン)



チェンさんとズンさんご夫妻はふたりともラウンジの日本語教室に通っています。

Q、どちらのご出身ですか？

**ズン.** 夫(チェンさん)はベトナム北部のハイフォン、私(妻ズンさん)はベトナム建国の父とされるホーチミン氏の出身地である、中部のゲーアン県出身です。ふたりはハノイ工科大学の日本語クラスで出会いました。日本に来た時期が違うので最初はベトナムと日本、日本国内でも勤務地が離れていたため、合計3年間の遠距離恋愛になりました。そして去年1月に結婚しました。

Q、日本の印象はいかがですか？

**チェン.** 空気がきれいなところが好きです。連休には必ず旅行をしてたくさんの観光地に行きました。初めての旅行は沖縄でした。ソーキそばが好きになりました。青森は冬に行きました。ー16度の八甲田山で撮った写真は結婚記念写真集の冬の部を飾っています。富士山は春と秋に撮った写真が結婚記念写真集には入っています。

ふたりとも働いているのですが、仕事仲間は優しくてまじめですから、彼らから多くを学ぶことができます。ただ、働き方がベトナムと違って困ったこともあります。たとえば、「ハウレンソウ」です。これは上司と部下の間で報告、連絡、相談をすることで、みんなには当たり前なので言葉で説明されません。毎日書く業務記録を周りの日本人にチェックしてもらって、報告の仕方に慣れることができました。

**ズン.** 役所の人とも親切ですが、役所の外には意地悪な人もいます。せっかく育てた家庭菜園の野菜が引き抜かれたときは寂しかったです。

日本の食べ物で好きなのは「たこ焼き」です。作り方

が面白くて楽しいので、たこ焼き器を買って自分たちで作るようになりました。

Q、ラウンジの日本語教室について聞かせてください。

**ズン.** 私にとって「この教室がなければ今の私はありません」と言うくらいの存在です。日本語を学ぶだけでなく、生活や日本語学習のモチベーションを上げてくれます。クラスが好きなので、仕事のあと疲れていても教室に行きます。家を買って赤ちゃんも生まれたので、これからもっと日本語の勉強が必要だと思っています。

**チェン.** 私はパソコンで仕事をするので、仕事で日本語を使う機会が少なく、最初の3年間はなかなかうまくありませんでした。日本語教室の先生と一緒に勉強の方法を考えてくれて、教室の外でも勉強できるようになり、日本語が上達しました。上達には自信が一番大切だと思っています。教室では間違えてもいいし、先生が優しいので自信がつかます。

Q、ベトナムのおすすめ観光地を教えてください。

**チェン・ズン.** ベトナムは若い人が多いので笑顔で楽しい雰囲気です。料理も味がはっきりしているので是非楽しんでください。ハノイやダナン、ホーチミンはよく知られていると思うので、他のところを紹介します。



まず、紹介するのは南西部のタイ湾にあるフーコック島です。海がきれいです。ベトナムでいちばんきれいといわれる白い砂浜があってイカ釣り体験もで

きます。それから、近くの島へ渡るロープウェイがあります。世界でいちばん長い7899.9mで、とても高いところを通るので眺めが良いです。フーコックの街並みや他の島も見えます。フーコック島ではカジノも楽しめます。

もうひとつは

サパです。北西部の高原で、景色が素晴らしくて涼しいです。ファンシ



パン山は3,147メートルで、インドシナ半島でいちばん高い山ですが、山頂までケーブルカーで行けます。そこから眺める雲海が素晴らしいです。山頂には金山宝勝寺というお寺があって仏塔や仏像を見ることができます。それから、東南アジア最大の棚田も美しく、ベトナムの国家景観遺跡です。



こうほくちいきがくこうざ  
**港北地域学講座**

こうほくこくさいこうりゅう  
**港北国際交流ラウンジ 25年のあゆみ**

11月22日(土)、港北地域学講座「外国人住民の  
声から学ぶ港北の今 ～港北国際交流ラウンジ 25年  
のあゆみ～」(主催: 港北区区民活動支援センター)が  
開催されました。ちょうど、港北ラウンジが今年25  
周年ということもあり、ボランティアの皆さんと共  
に、私たちが 25年間日々取り組んできたことをご  
紹介させていただく良い機会となりました。一般で募  
った参加者の皆さんも、とても熱心に聞いてくださり、  
多文化共生への関心の高さがうかがえました。

まず、横浜市に国際交流ラウンジが作られた背景  
(外国人住民の増加)と国際交流ラウンジの役割に  
ついてご説明しました。また、港北国際交流ラウンジ  
では実際にどのような事業を行っているのかをご  
紹介し、主力事業である「日本語教室」や「ニュー  
カマー子どもの教室」については、ボランティアとし  
て活動している方から詳しい説明と、活動を通して感じ  
ている思いややりがいについてもお話しいただきました。

外国人住民の本音トークコーナーでは、韓国・ベト  
ナム・ギリシャ出身のスピーカーの方々から、自分の

国と港北区の好きな場所、習慣の違い、日本で困った  
り不安に感じたことなどをお話しいただきました。  
外国人の方が日本のコミュニティで感じる難しさや  
不安の経験談は、意外にも「日本人同士でも同じよう  
に難しさを感じることもある」と共感の声が上がって  
いました。

また、やさしい日本語認定講師より、「やさしい  
日本語」で伝えることの大切さも学び、グループワー  
クでは、外国人とともに暮らすために自分に何ができ  
るか皆と一緒に考えました。

これからもっと、日本人と外国人がともに暮らしや  
すく活動しやすい町づくりを自指して、私たちも活動  
していきたいと思います。



でんとうぶんか 伝統文化『包む』のお話とワークショップ

11月9日「日本の伝統文化『包む』のお話とワーク  
ショップ、ポチ袋作り」が開催されました。

約600年も前から伝わる包む文化と外国の包む文化  
との違いにもふれ、改めて日本文化の奥深さを学びました。



< 講師 >

ギフトラッピングコーディネーター  
菊地なをみ

参加の皆さんには和紙で  
ポチ袋を作ってもらいま  
した。来年のお年玉袋は  
きっと手作りでしょうね。  
次回12月14日は、日本  
の伝統文化「結ぶ」のお話  
と水引ストラップ作りです。

でんとうぶんか 伝統文化体験教室

かどう  
**華道**

1月26日(月)  
1pm~3pm

参加費 fee

外国人 Non-Japanese 300yen  
日本人 Japanese 600yen



しょうどう  
**書道**

2月3日(火)  
1pm~3pm

参加費 fee

外国人 Non-Japanese 100yen  
日本人 Japanese 200yen



Please make a reservation at the lounge reception.  
Reservation can be made up one month in advance.

よこはましこうほくこくさいこうりゅう  
**横浜市港北国際交流ラウンジ**  
**KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE**

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町316-1  
Tel 045-430-5670 Fax 045-430-5671  
E-mail kohokulounge@yokohama.nifty.jp  
ホームページ https://kohokulounge.com/



Website



Facebook



Instagram